

## 生物多様性 あいち学生プロジェクト 第3回ワークショップを開催しました！

2020年1月12日（日）に、名古屋国際会議場にて「生物多様性 あいち学生プロジェクト」第3回目のワークショップを開催しましたので、様子をレポートいたします。

### ① 挨拶

愛知県自然環境課主幹の來住南氏より、参加した学生14名に向け、生物多様性保全の分野で若者に期待する旨の挨拶がありました。この日は名古屋国際会議場で、COP10以降10年間の成果を共有する「あいち・なごや生物多様性 EXPO」が開催され、県内の多数の活動団体が集まって取組内容を共有するとともに、連携の輪を広げる「あいち・なごや宣言」が宣言されたばかりでした。こうした熱気の余韻が残る中、若者を中心として、活動をオール愛知に広げていってほしい旨の話がありました。



### ② 基調講演

続いての基調講演では、「取組を広げるための情報発信」に関して、(株)Q-inks 代表取締役の竹内崇也氏から講演を頂きました。今や多くの人が利用する「食ベログ」や「Twitter」の立ち上げに参加された貴重なご経験をお持ちの竹内氏からは、世の中になくサービスを市場に出すにあたり、最初に「このサービスは世の中のためになるか」を徹底的に自問すること、まずはサービスの枠組みを固めて市場に出し、ユーザの反応をみながら修正していくことが重要であること、ユーザへのメリットを明確にするべきこと等、今後当プロジェクトでの取組を広げていく上で参考になるお話を伺いました。

### ③ ワークショップの様子

第1回、第2回に引き続き、ビオトープ・ネットワーク中部会長の長谷川明子先生の明るく楽しいファシリテートのもと、参加学生の皆さんによるグループワークを行いました。今回は、学生が県内に多数ある活動団体とコラボレーションを行う場合、どういう協働が可能か、具体的な団体、活動内容を想定したアイデア出しを行いました。「既存の学生サークルと協働した廃材利用の取組」や「情報発信により、各団体をつなげた環境調査」など様々な発表があり、今後の活動に向けたヒントとなりました。



ワークショップの最後には、事務局である日本エコロジスト支援協会より、活動を広めていくための情報発信手法の一例として、生物多様性ポータルサイトのイメージ案について情報提供がありました。